

同志社大学

2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年 3月 11日提出

所 属	職 名	氏 名								
日本語・日本文化 教育センター	准教授	徐 潤 純								
研 究 題 目	在日韓国人の言語に対する意識について									
研 究 成 果 の 概 要	<p>現在、在日韓国・朝鮮人は、日本の定住外国人の中でのマジョリティーとして独自の社会・世界を構成している。しかし、第2次大戦以降の人口増加の伸び率とは裏腹に、日本国籍への帰化や死去により、年々その数は減少の一途をたどっている。また、定住外国人として最大のマジョリティーであったにもかかわらず、在日中国人の急激な増加に伴い、日本国内第2位の定住外国人となった。</p> <p>そこで、今年度は昨年度に引き続き、在日韓国・朝鮮人の母国語（朝鮮語）に対する意識に焦点を絞り、その言語生活の実態を明らかにすることに焦点を絞り、研究を進めてきた。調査地として沖縄を選定し、4月に現地調査を行った。当初の計画は、以下の通りであった。</p> <table><tbody><tr><td>4月～7月</td><td>資料の収集と調査</td></tr><tr><td>8月～9月</td><td>調査データの分析</td></tr><tr><td>10月～12月</td><td>論文の執筆</td></tr><tr><td>1月～3月</td><td>論文の投稿と審査、掲載</td></tr></tbody></table> <p>今年度の研究の進捗は計画通りに進み、研究テーマ以外にも複合的な他のテーマを合わせて、論文発表および日本文化に関する公開講演会の企画、韓国の大学との共同学術発表会・共同研究企画会議などを開催した。詳細は以下の通りである。</p> <p>2014年7月11日 オーストラリアのシドニーで開催されたシドニー日本語教育国際研究大会2014で、「韓国人日本語学習者の依頼表現に関して - 『～てください』を中心に - 」というテーマで発表。</p>		4月～7月	資料の収集と調査	8月～9月	調査データの分析	10月～12月	論文の執筆	1月～3月	論文の投稿と審査、掲載
4月～7月	資料の収集と調査									
8月～9月	調査データの分析									
10月～12月	論文の執筆									
1月～3月	論文の投稿と審査、掲載									

2014年12月2日

和食の第一人者である老舗料亭「菊乃井」の当主村田吉弘氏をお招きし、公開講演会「日本人と食」を企画・開催。

内容：和食がユネスコ無形文化遺産に登録された経緯や、日本文化や生活に密着した食についてご講演いただいた。留学生と日本人学生がともに和食の魅力に触れ、和食を通じて日本文化の理解を深める機会にもなり、国際交流の場となることを目的とし、企画・開催。

2015年1月28日

韓国の高麗大学BK21Plus 中日語文学事業団との共同主催で「共同学術発表会」を開催。

内容：「日本語・日本語教育・日本文化」について両国の院生が発表を行った。発表会は第1部の「研究計画発表」と第2部の「研究成果発表」に別れ、第1部では今後論文を書こうとする準備段階にある4名、そして第2部ではすでに論文を一通り書き終えた8名の学生が発表を行った。

発表会後には、日文センターと高麗大学日語日文学科の教員が、現在までの日本語教育のカリキュラムなどについて互いに発表を行い、学習者に対して今後どのような日本語教育が必要なのかを模索する共同研究企画会議が持たれた。

2015年3月

『同志社大学日本語・日本文化研究』第13号に、論文「沖縄在住の韓国・朝鮮人ニューカマー1世の母国語に対する意識」を掲載。